

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Associations between Glycosylated Hemoglobin Level at Less Than 24 Weeks of Gestation and Adverse Pregnancy Outcomes in Japan: The Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル: 妊娠24週未満に測定されたヘモグロビンA1cと周産期予後: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Diabetes Research and Clinical Practice

年: 2020 月: 卷: 頁:

筆頭著者名: 岩間 憲之

所属UC名: 宮城UC

目的:

日本において、妊娠24週未満に測定されたヘモグロビンA1cと周産期予後との関連を調査した。

方法:

1歳時全固定データを使用し、ヘモグロビンA1cが6.5%未満であった77,526人の妊婦を解析対象者とした。妊娠24週未満に測定されたヘモグロビンA1cを暴露要因、周産期予後アウトカムとして、多重ロジスティック回帰分析あるいは多項ロジスティック回帰分析を適宜使用した。

結果:

妊娠24週未満に測定されたヘモグロビンA1cが6.5%未満であっても、高値であるほど周産期予後は不良であった。ヘモグロビンA1cが上昇するほど、周産期予後(妊娠高血圧症候群、常位胎盤早期剥離、早産、低出生体重児、巨大児、Small for gestational age [SGA]、Large for gestational age [LGA]、および、これらの複合アウトカム)の調整オッズ比は有意に高かった。

考察:(研究の限界を含める)

これまで、日本人妊婦において妊娠24週以降のヘモグロビンA1cと周産期予後との関連に関する知見は限られていた。本研究は日本人妊婦を対象として、妊娠24週未満に測定されたヘモグロビンA1cが6.5%未満であっても、高値であるほど周産期予後が不良であることを示した初の研究である。したがって、日本において妊娠24週未満のヘモグロビンA1cに基づいた周産期管理の検討が必要と考えられた。研究の限界として、妊娠24週以降のヘモグロビンA1cが未測定であること、妊娠糖尿病に対する介入のデータが無いことが挙げられる。

結論:

日本人妊婦において、妊娠24週未満に測定されたヘモグロビンA1cが6.5%未満であっても、ヘモグロビンA1cが高値であるほど周産期予後は不良だった。